

## 徳部会

〈職員評価結果から〉

- ・「いじめ防止集会」を経ての人権教育、同和教育が計画的によく取り組まれていた。
- ・今後、いじめの早期発見を目的とした生活アンケートを定期的実施する必要がある。
- ・言葉づかいを意識させる活動を組織する必要がある。
- ・学級の人数が少なくなっているため、道徳の授業で葛藤場面の盛り上げが難しい。異学年での意見交流（全校道徳）を定期的に行ってみたい。

〈生徒アンケート結果から〉

- 良い友達関係を築き、互いを大切にできる態度で接した（A評価 58%→78%）
- しっかり話し、しっかり聴いた。時と場に応じた言葉を使った。（A評価 15%→41%）
- 挨拶をしっかりとした。（A評価 54%→70%）
- 夜更かしや朝寝坊をしないように心がけ、決まった生活リズムで生活した。（A評価 23%→48%）
- 生活リズム（C評価 26%）、自主的に読書をし（CD評価 19%）、言葉づかい（CD評価 18%）

〈保護者アンケート結果から〉

- ・後期評価をみると、4項目中3項目でA B評価 100%となった。この結果から、話し合い活動や体験活動が充実していると判断されている保護者の方が多いということが分かる。
- ・A B評価が100%にならなかった項目は「挨拶」「言葉づかい」である。（A B評価 83%→90%）回答して下さった保護者の内、「挨拶」「言葉づかい」に10%のマイナス評価をいただいた。小学校低学年の児童が、挨拶をしても中学生が挨拶を返してくれないと感じていることも分かった。

〈成果〉

- ・話し合い活動の充実、人権教育や同和教育の計画的実施により、誰とでもよりよい関係を築いていこうとする態度が生徒に培われてきていると考える。
- ・「いじめ防止集会」でのパネルディスカッションを通して、30人規模での異学年意見交流が行われた。生徒が用紙に記入した内容から、見方・考え方の広がりが見られた。

〈課題〉

- ・「元気で爽やかな、自分の方から積極的にする挨拶」、「時と場に応じた言葉づかい」という点で、生徒の意識向上を図る必要がある。
- ・異学年の中で積極的に発言したり、意見交換をする生徒の姿が少ない。

〈課題の解決に向けた具体的な実践事項・提言〉

- ・年度当初に計画していた「愛ことば週間」を行うことができなかった。その結果が上記今年度の課題に表れていると考える。  
来年度は「挨拶」や「場に応じた言葉づかい」に関して、年数回の強調旬間を小・中合同で設定し、学校を挙げて同一歩調で実践していく。詳細に関しては今後検討する。
- ・チャレンジウォークの事前・事後指導の時や、追悼式の事前・事後指導の時など、大きな学校行事にあわせて全校意見交流の場を積極的に設定する。異学年の中で積極的に発言したり、相手の意見を聞く経験を十分に積ませる。